



遣伯使見聞録



Eu moro aqui (わたしはここで生きる)

夜行バスで11時間かけて、最後の滞在都市サンパウロに来ました。大草原を超えて、たどり着いたところは大都市でした。人、車、店がたくさん過ぎて、田舎もんの自分には目が回りそうでした。サンパウロ市は大阪市と姉妹都市、そこで比較してみました。



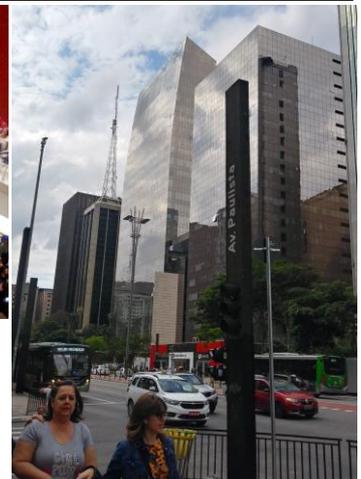
【サンパウロ市と大阪市の比較】

Wikipedia より

	サンパウロ市	大阪市
概要	市街地には高層ビルが、郊外には多くの工場が立ち並ぶ大都市。都市圏人口は南半球一。南米の経済、文化の中心地。	近畿地方および西日本の行政・経済・文化・交通の中心都市。2016年度の市内総生産は約20兆円で、政令指定都市中最大。
人口と面積	12,038,174人 1521.11 km ² 人口密度：7,913人/km ² (2016年現在)	2,740,202人 225.21km ² 人口密度：12,167人/km ² (2019年現在)
気候	12~2月頃の夏は気温が30℃を超えることもある反面、6~8月頃の冬は10℃以下に下がり霜がおりることもある。	瀬戸内海式気候に属し、年間を通して温暖。8月の平均気温は28.8℃で、全国の都道府県庁所在地の中では一番高い平均気温。

調べてみると、大阪市もすごいなっていうのが印象です。でも、町を歩いてみると、いろんな人種の人が大勢いて、自分の目的に向かって「生きてる！」って感じがしました。

- ・地下鉄は、車内もホームも人、人、人！
- ・肌の色、目の色はさまざま。体感温度が違うのか、同じ日なのに、Tシャツ短パンの人もいれば、コートを着ている人もいる。



- ・信号は守るものではなく、自分の判断で渡るための電光掲示。車のクラクションは鳴りまくり。
- ・物を売ろうと声をかけてくる人の勢いは半端ない。
- ・歩道には、足早に歩く人、物を売る人、物ごいをする人、座ってスマホをいじっている人、寝ている人、イチャイチャしている人…。
- ・ごみ問題や大気汚染、騒音などは、決してよいとは言えません。
- ・高層ビルが所狭しと並んで建っています。形はおしゃれですが、耐震は大丈夫かなと思います。
- ・夜中まで、車の音、工事の音、人の叫び声など静まることはありません。

なんとなくサンパウロのイメージがわいたでしょうか？エネルギーがあふれている街！人が「生きてるな〜！」っていう街です。

日本とのつながり

そもそもブラジルは移民の国。いろんな国の人種は混ざり合っています。ですので、いろんな国の人や考え方を受け入れてくれていると感じました。サンパウロには日系人がたくさんいて、日本とのつながりも強いです。サンパウロ市の中心地にある東洋人街「リベルダーヂ (Liberdade)」地区は、日本らしさを取り入れた街づくりがされています。

日本と言えば「日本食」と「アニメ」です。久しぶりに日本のラーメンを食べることもできました。「ナルト」は大人気で売り切れているほどでした。



地下鉄の中 ~ナッツコラム~

ブラジルに来て地下鉄に乗るのは初めて。またナッツの人間観察が始まった。本当はいけないんだけど、地下鉄の中はいろんなことをしてお金をもらおうとする人がいる。お菓子を売る人、キーホルダーやカードホルダーを売る人、楽器を演奏している人。これくらいは、ナッツとしてはオクケー！驚かない。ところがある駅から、男女のラッパーが乗ってきた。即興で目の前の人について歌い始める。…やばいこっちにきた「ヨーヨージャポネーゼ、中国人じゃないってわかるんだ！中国人よりパステオ作るの上手だよー！ヨー、だからお金ちょうだいヨー！」だって。意味不明なんだけど、ナッツはちょっとノッてた♪あと、80歳になる満州国生まれでブラジルに移民してきた日本人のおじいちゃんにも出会ったね。うれしそうに70年前の話をしてくれた。地下鉄の中には人生があるねえナッツ！（ナッツの腕時計より）

